

平成25年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	B 1	取組 名称	京都地域情報・文化遺産データベースのコンテンツ作成と活用
研究代表者： 文学部歴史学科 准教授 東 昇			
研究担当者： 京都府立大学（小林啓治、藤本仁文） 外部分担者・協力者（京都府立総合資料館）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府立総合資料館歴史資料課・文献課・総務課			
<b>【研究活動の要約】</b>			
<p>京都府内に膨大に存在する文化遺産を、現在・未来の住民のための地域情報として、有効に利活用するデータベースの内容（コンテンツ）の作成、展開、活用について昨年度に続いて検討した。コンテンツ作成に関しては、旧葛野郡域（現京都市域）の明治期の地誌資料の一部2件のべ73村分計19万8000字の翻刻、データ入力を完了した。展開と活用については報告書を刊行し、京都市左京区二ノ瀬、岡崎、城陽市域の調査研究、歴史遠足、成果報告会を実践するなかで、地域住民が持つ地域情報を活用し、連携する重要性を確認した。</p>			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<p>上記の研究成果を『京都地域情報・文化遺産データベースの展開・活用－「郡村誌」の地図化と二ノ瀬・岡崎を事例に－』（93頁）として刊行した。内容は以下の2部構成とした。</p> <p>① 京都地域情報データベースの展開 1 「郡村誌」のテキスト化と人材育成、府県による「郡村誌」記載の比較、地理情報分析支援システムMANDARAを利用した明治前期の愛宕郡統計地図の作成、2 武蔵国の領主別行政村配置図を作成し全国展開の可能性を指摘、正確な愛宕郡村界図を作成しその方法を解説。</p> <p>② 京都地域情報データベースの活用 1 京都市左京区二ノ瀬の近世について、領主林家と領民の関係を文書により分析した論考。2 AR（拡張現実）という最新IT技術を用い、京都府立総合資料館の府民向け歴史遠足の企画・運営報告。3 2010～12年度アクターで取り組んだ城陽地域に関して、文化遺産調査の成果報告会を開催し、地域で学ぶ府民の研究会との連携を実現した双方向性の会の記録。</p>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
<p>2013.3.17 文学部歴史学科主催「城陽・青谷の文化遺産と歴史－京都府立大学の地域研究の報告会－」を開催し成果報告、参加者120名</p> <p>2013.3.31 『京都地域情報・文化遺産データベースの企画・展開・活用－明治期の「郡村誌」と近世村町別文書一覧－』（93頁）を刊行。（府下の図書館で閲覧可能（予定））</p>			
<b>【お問い合わせ先】</b> 文学部歴史学科 准教授：東 昇			
Tel: 075-703-5271		E-mail: n-higashi@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）



ARを使った歴史遠足（プレ遠足）の実施風景



「城陽・青谷の文化遺産と歴史－京都府立大学の地域研究の報告会－」の様子